

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01201

研究課題名（和文）資源共有に基づく「トランスローカル・コミュニティ」の文化人類学的研究

研究課題名（英文）Anthropological Study on a Translocal Community in Pingelap

研究代表者

中谷 純江（Nakatani, Sumie）

鹿児島大学・総合科学域総合教育学系・教授

研究者番号：30530034

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ミクロネシア連邦ポンペイ州ピンゲラップ環礁島を主対象とし、移動と島嶼性とコミュニティの3点について考察することを目的とする。初年度は、まず、ピンゲラップ島で主要な生産資源である「土地」と「労働力」が、交換・贈与される機会としての、相続と婚姻と養子の慣行について調査し、現在の人口減少や過疎化にこれらのシステムがどのように対応しているのかを明らかにした。つづく3年間は新型コロナウイルスの影響で渡航ができず、文献を用いて日本の島嶼社会やインドとの比較研究を行った。延長申請を行い、最終年度となる2023年にハワイ及び米国本土でピンゲラップ移民の調査を実施することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

相続、婚姻、養子の慣行は、島の人口問題や土地保有に結びついており、島の人口が著しく増大した20世紀初頭にこれらの制度がどのように人口増に対応したのかを現地調査から明らかにした。また、近年の人口移動と島の過疎化に対処するために新たに出現した富の再分配制度に注目して、ピンゲラップ社会が島外移住者も含む資源共有に基づいて維持されていることを論じた。移民社会の調査から、現在の人の移動と交換の形態、モノ、金、情報の具体的動きを確認し、島が地理的な境界を越えた大きなネットワークの中で維持されていることを明らかにした。これらにより、島の存続という観点から移民社会の研究を行うことの重要性を示すことができた。

研究成果の概要（英文）：This study aims to explore migration, community, and insularity in Pingelap island, an atoll of Pohnpei state in Micronesia. In a first year, research in Pingelap island was conducted on traditional practices of succession, marriage, and adoption in which land and labour of main production resources in the island are exchanged, and on their changes under the situation of increasing migration and decreasing population. In the following three years, fieldwork in abroad could not be done because of Covid-19, and previous studies on marriage, migration, and adoption from islands of Japan were analyzed in comparison. In the last year of study, field research on migrants of Pingelap in Missouri of a mainland US could be done, and a textual survey and discussion with researchers was made in University of Hawaii, a center of Island studies.

研究分野：文化人類学

キーワード：島嶼社会 相続 婚姻 養子 トランスローカルコミュニティ 人の移動

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

太平洋ミクロネシア連邦ポンペイ州に在るピングラップ島は、近年の人口減少が著しく100人以下となっており、島の存続自体が危ぶまれる状況にある。しかし、ピングラップ島の人口を歴史的に見れば、サイクロンに襲われ、わずかに数家族を残す大多数を失った時期もあれば、20世紀初頭には、島内で1000人を超える人口を支えていた時期もある。こうした人口の増減に対し、島の人々がいかに対応してきたかを明らかにすることにより、今後、コミュニティをいかに存続させ、発展させるのかを検討する必要がある。

2. 研究の目的

人の移動は、ホーム社会にとって人口減少や高齢化、労働力衰退などのマイナス影響をもつ一方で、人の移動によって生まれる広範なネットワークや情報や成功者による寄付など、新たな資源をもたらす。島嶼社会の居住者と移出者が共有する有形無形の資源をどのようなネットワークの中で所有し、利用・管理し、受け継ぐのかについて調査を行うことで、移動を通して得られるネットワークや資源を用いてコミュニティを維持、発展させる方途を見出すことを目的とした。

3. 研究の方法

まず初めに、島の主要な生産資源である「土地」と「労働力」が、交換・贈与される機会としての、相続と婚姻と養取の慣行について調査した。ピングラップ島では、かつては土地の区画は親族集団ごとに割り当てられていたが、時代を経るうちに家族や世帯単位に細分化・分散化されていった歴史がある。先行研究によれば、ピングラップ社会では、相続や婚姻など親族システムを進化させながら人口増加に対応し、島の限られた土地に多くの人々が暮らすことを可能にしてきた[Damas 1983]。例えば、父方と母方の両方から土地を相続する「二重相続」の制度は、人口増加にともなって生まれたと考えられる。所有地が複数個所にちらばる結果につながるが、それがセキュリティの役割を果たし、どこかの土地が塩水にやられても、別のところに収穫が期待できる。かつて頻繁に行われた養子慣行は、世帯人口のアンバランスを解消し、島の限られた土地が支える人口を最大化することを目的に行われてきた [Damas 1994] と説明されている。それでは、現在の人口減少や過疎化に対応するため、相続や養子など親族システムはいかに変化しているのかを明らかにした。

次に、島外に居住する人々との間の具体的な相互行為について調査をおこなうため、島外コミュニティを訪問した。米国での暮らしや親族・婚姻関係、資源共有に関わる相互行為、アイデンティティのあり方、遺伝病(全色盲)の現出について調査を行うこととした。しかし、新型コロナウイルスの影響で2020年度、2021年度、2022年度まで海外渡航ができなかったため、ピングラップの養子慣行や婚姻慣行を人口の不均衡是正や富の再分配制度とみなす視点から、文献を用いて日本やインドの制度との比較研究を行うとともに、鹿児島県の沖永良部島で婚姻・養子の制度に関する調査を行った。

プロジェクト期間を一年間延長し、ようやく2023年度に海外長を実施することができ、米国ハワイ大学島嶼研究センターで、研究者交流や資料収集を実施したほか、ミズーリー州南部とアラカンソー州の北西部の州境地域、Citizens of COFA (Compact of Free Association)と呼ばれる、太平洋諸島移民が集団で居住している地域を訪問し、ピングラッ

プ移民社会の調査を行うことができた。コミュニティの再生産にかかわる種々の行為、結婚、出産、教育、葬送、相続等におけるピングラップ母島とのつながり、相互行為について聞き取りを行った。

4. 研究成果

ピングラップ島との比較研究により、女性が嫁ぐ際に持参財として、生家から婚家へ土地を贈与する慣習がインドにも、ピングラップ島にも、そして日本の喜界島や沖永良部島にも見られた。しかし、階層的な社会であるインドと、平等的な社会であるピングラップや喜界島では、持参財の意味が異なることが明らかになった。前者は、地位を上げることが目的とするのに対し、後者は、財を共有することを目的とし、真逆の意味をもつ。また、同じ鹿児島に位置する喜界島と比して、社会構造が階層的である沖永良部島では、親族システムにおける女性の位置や女性の行為主体性が異なることが明らかになった。

また、鹿児島県喜界島と沖永良部島、沖縄県で親族制度や婚姻・養子に関わる聞き取りを行ったことで、ミクロネシア・ピングラップ島で観察された双系社会における養子の役割や位置づけが、日本の島嶼部に見られる父系社会もしくは、血縁に基づかない社会(地縁社会)とどう異なるのかを考察することができた。沖縄県本島だけでなく、多良間島でも調査を行い、沖縄においては、養子慣行自体が門中制度と強く結びついて展開してきたことと、近代化や日本化(明治以降のヤマトの影響)によって家父長的な女性排除が強まっていったことが明らかになった。奄美・沖縄での研究成果は、過疎化や高齢化という問題を抱える島が、政治的経済的な遅れや停滞の中で、自らの文化的ルーツやアイデンティティを強く希求するようになる状況を表していると考えられ、ピングラップとの比較において重要な視点をえることができた。

最後に、米国ハワイやミズーリー州在住のピングラップ島移民の調査からは、彼らの国境を超えて島と米国を往来するトランスローカルな暮らしのあり方、米国での不安定な政治経済的立場、健康や経済的問題など、様々なリスクに直面する中で、コミュニティの文化が変容するプロセスについて調査を行うことができ、本研究の目的である「トランス・ローカル・コミュニティ」を維持、発展させる方途について考察することができた。これらの成果については、日本島嶼学会や比較家族史学会で発表した。

参考文献

Damas, David (1983) "Demography and Kinship as Variables in Adoption in the Carolines." *American Ethnologist* 5(2):328-44.

Damas, David (1994) *Bountiful Island: A Study of Land Tenure on a Micronesian Atoll*. Wilfrid Laurier University Press.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Takaoka, H., Otsuka, Y., Fukuda, M., Low, V. L., & Ya'cob, Z.	4. 巻 39(2)
2. 論文標題 Morphological revision of <i>Simulium</i> (<i>Gomphostilbia</i>) <i>ogatai</i> (Rubtsov) in the <i>S. ceylonicum</i> species-group (Diptera: Simuliidae) from Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Tropical Biomedicine	6. 最初と最後の頁 231-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.47665/tb.39.2.012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Takaoka, H., Otsuka, Y., Huang, Y. T., Low, V. L., Fukuda, M., & Ya'cob, Z	4. 巻 227
2. 論文標題 Descriptions of two new species of the <i>Simulium</i> (<i>Simulium</i>) <i>striatum</i> species-group (Diptera: Simuliidae) from Taiwan and Japan, and a revised description of <i>S.</i> (<i>S.</i>) <i>quinqestriatum</i> (Shiraki)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Acta Tropica	6. 最初と最後の頁 106-293
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.actatropica.2021.106293	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Takaoka, H., Fukuda, M., Otsuka, Y., Low, V. L., & Ya'cob, Z.	4. 巻 225
2. 論文標題 Redescription of <i>Simulium</i> (<i>Gomphostilbia</i>) <i>omutaense</i> Ogata & Sasa (Diptera: Simuliidae) from Japan and its phylogenetic relationship with other members of the <i>S. batoense</i> species-group	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Acta Tropica	6. 最初と最後の頁 106-207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.actatropica.2021.106207	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Otsuka, Y.	4. 巻 33
2. 論文標題 Prevention of dengue fever in small islands of Micronesia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Prevention of dengue fever in small islands of Micronesia	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本宗立	4. 巻 122
2. 論文標題 ミクロネシアの島の暮らしと食 第1回 生活一般と台所	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Vesta	6. 最初と最後の頁 74-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本宗立	4. 巻 123
2. 論文標題 ミクロネシアの島の暮らしと食 第2回 主食	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Vesta	6. 最初と最後の頁 72-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本宗立	4. 巻 124
2. 論文標題 ミクロネシアの島の暮らしと食 第3回 魚介類	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Vesta	6. 最初と最後の頁 68-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本宗立	4. 巻 125
2. 論文標題 ミクロネシアの島の暮らしと食 最終回 陸上動物	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Vesta	6. 最初と最後の頁 74-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷純江	4. 巻 -
2. 論文標題 消費社会化がインド農村に及ぼす影響：顕在化する社会矛盾	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 佐藤隆弘他編『図解インド経済大全 全11産業分野(73業界)収録版 - 政治・社会・文化から進出実務まで -』白桃書房	6. 最初と最後の頁 22-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷純江	4. 巻 168
2. 論文標題 花嫁のダウリーボックス：インド女性の衣服と贈与の循環	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 93-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷純江	4. 巻 2
2. 論文標題 島嶼コミュニティにおける財の交換	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大塚靖・山本宗立編『ミクロネシア学ことはじめ：絶海の孤島ピングラップ編』南方新社	6. 最初と最後の頁 127-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大塚靖	4. 巻 2
2. 論文標題 公衆衛生：蚊媒介性感染症について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大塚靖・山本宗立編『ミクロネシア学ことはじめ：絶海の孤島ピングラップ編』南方新社	6. 最初と最後の頁 151-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本宗立	4. 巻 2
2. 論文標題 島の暮らし	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大塚靖・山本宗立編『ミクロネシア学ことはじめ：絶海の孤島ピングラップ編』南方新社	6. 最初と最後の頁 13-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sota Yamamoto	4. 巻 20(2)
2. 論文標題 Long-Term Survey of Food Consumption on Pingelap Island, Pohnpei State, the Federated States of Micronesia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Journal of Island Studies	6. 最初と最後の頁 141-154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 中谷純江
2. 発表標題 近現代エラブ社会における女性の行為主体性
3. 学会等名 比較家族史学会 2024年春季大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Sumie Nakatani
2. 発表標題 Pingelap Community in US
3. 学会等名 ピングラップ研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 中谷純江
2. 発表標題 課題の整理と共有
3. 学会等名 浦河町多文化共生ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Sumie Nakatani
2. 発表標題 Pingelap Community in US
3. 学会等名 Periodical Meeting of a Research Group on Life and Health among Migrants
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 山本宗立
2. 発表標題 ミクロネシアの食生活 伝統と近代のはざままで
3. 学会等名 第194回東南アジアの自然と農業研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Otsuka Yasushi, Yamamoto Sota, Kawanishi Motohiro, and Taniguchi Mitsuyo
2. 発表標題 Prevention of dengue fever in small islands of Micronesia.
3. 学会等名 17th International Conference on Small Island Cultures (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中谷純江
2. 発表標題 近現代エラブ社会における女性の行為主体性
3. 学会等名 日本島嶼学会沖永良部大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中谷純江
2. 発表標題 養取とコミュニティ：ミクロネシア・インド・日本
3. 学会等名 養取研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大塚 靖
2. 発表標題 奄美群島のトクナガクロヌカカについて
3. 学会等名 日本島嶼学会沖永良部大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本宗立
2. 発表標題 キダチトウガラシの日本への伝来：太平洋伝播経路
3. 学会等名 日本島嶼学会沖永良部大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中谷純江
2. 発表標題 親族・家族構造の変容
3. 学会等名 養取研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sota Yamamoto
2. 発表標題 Food and energy in Micronesia and a short note on ethnobotanical survey of chili peppers in Maluku Province, Indonesia
3. 学会等名 The 2nd International Conference on Agriculture, Biodiversity, Food Security and Health: Strengthening Food Security and Sustainable Energy of the Small Island Communities (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sota Yamamoto
2. 発表標題 Long-term food consumption survey in Micronesia
3. 学会等名 International Conference on Sustainable Utilization of Natural Resources: Sustainable Utilization of Natural Resources to Increase Economic Resilience (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大塚靖、山本宗立、川西基博
2. 発表標題 ミクロネシア連邦ピス島におけるデング熱媒介蚊対策の効果について
3. 学会等名 第72回日本衛生動物学会大会、東京医科歯科大学
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sota Yamamoto
2. 発表標題 Long-Term Survey of Food Consumption on Pingelap Island, the Federated States of Micronesia
3. 学会等名 The 7th East Asian Island and Ocean Forum (EAI0F) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本宗立
2. 発表標題 ミクロネシア連邦ピングラップ島における長期間にわたる食事調査結果
3. 学会等名 2019年次日本島嶼学会宮古島大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本宗立・西村 知・中谷純江
2. 発表標題 ミクロネシア連邦ポンベイ州ピングラップ島におけるイモ畑の所有・相続・管理
3. 学会等名 日本熱帯農業学会第127回講演会
4. 発表年 2019年～2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 大塚靖・山本宗立編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 南方新社	5. 総ページ数 175
3. 書名 ミクロネシア学ことはじめ：絶海の孤島ピングラップ編	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大塚 靖 (Otsuka Yasushi) (00244161)	鹿児島大学・総合科学域共同学系・准教授 (17701)	
研究分担者	山本 宗立 (Yamamoto Sota) (20528989)	鹿児島大学・総合科学域共同学系・准教授 (17701)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	稲留 直子 (Inadome Naoko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関